1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170101436		
法人名	特定非営利活動法人 さわやか福祉ネットワークぎふ		
事業所名	グループホーム柳ヶ瀬		
所在地	岐阜市金町4丁目28番地		
自己評価作成日	令和2年8月24日	評価結果市町村受理日	令和2年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170101436-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 んふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和2年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・食事は全て手作りで提供します。季節の物を取り入れ利用者の希望に沿った献立を考慮しています。・医療依存度の高い利用者でも病院の付き添いや送迎介助の手伝いを行い、希望があれば安心して看取りを行う環境が整っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は岐阜市の中心部にあり、家族や馴染みの人が訪問しやすく、商店街や百貨店に外出しやすい立地にある。利用者は外出を楽しみながら、音楽療法や介護エステ等にも参加し、活気ある生活を送っている。食事は三食とも職員による手作りで、旬の食材を取り入れ行事食も充実しており、職員の細やかな支援は、利用者や家族の満足度も高い。職員同士の関係も良好で、長期勤務者も多く、協力医や訪問看護、訪問歯科等と連携しながら、ケアに努めている。家族の9割以上が看取りを希望しており、管理者と職員は、利用者が最期まで穏やかに暮らせるよう支援に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング等で話し合い、地域との関係の継続を図っています。行事に参加した時はホームの一員として自覚を持ち恥じない行動を心懸けています。	理念の「出会い・ふれあい・学びあい」は、誰もが見れるよう、事務所と廊下の目立つところに掲示している。新人研修で、この理念を具体化した10項目を学んでいる。職員は地域の協力を得ながら交流を図り、利用者が穏やかに楽しく過ごせるよう支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	金神社への参拝や高島屋や商店街へ一緒に買物に行くこともありますし、地域の行事にも参加しています。隣地ホームの利用者と交流を図っています。	開設当初から、近隣や地域の人と交流しながら、良い関係を築いている。自治会にも加入し、利用者と共に地域の行事や公民館開催のカフェ等へ参加していたが、新型コロナ感染予防対策として、現在は休止している活動も多い。収束後には交流の再開を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では町内の自治会長、民生委員の方々に参加して頂いて利用者の暮らしぶりや認知症の理解等発信しています。防災訓練では自治会長にも参加していただきました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の困難事例等報告して意見やアドバイスをもらいサービスに反映しています。地域の情報を提供していただきます。	運営推進会議は、隣にある同法人グループホームと合同で開催している。新型コロナ感染予防対策として開催を中止した時は、管理者・職員が利用者の状況、活動報告、予定について話し合い、会議メンバーには内容を文書で報告している。参加できない家族にも文書を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の参加、利用者状況報告、介護保険制度についての相談や情報提供等協力していただいています。	日常的に、行政と連絡を取り合い、助言や情報を得ながら協力関係を築き、サービスの向上に活かしている。生活保護受給者への対応や手続きについても、相談をしたり助言を得て、より良い利用者サービスにつなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングで拘束を行わないケアを定期的に話し合います。身体拘束廃止マニュアルを作成して周知しています。	3ヶ月に一度、身体拘束等適正化検討委員会を職員会議時に開催している。日々のケアを振り返り、身体拘束の有無及び状況を確認し、工夫をしながら拘束のないケアに取り組んでいる。会議の結果はミーティングや文書で職員に周知を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の表情などの変化に気をつけて見逃さないようにしています。不適切ケアがないかミーティングで話し合いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市民後見制度2名、社会福祉協議会の自立支援事業3名それぞれ利用されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面談の中で本人の希望を聞きだし不安点が無いように対応しています。リスクの説明もします。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や会議に参加していただいた時に要望を尋ねます。	利用者の意見や要望は、日常会話の中で聞いている。また、入浴支援等の個別ケア時にも、コミュニケーションを図りながら、思いを聴いている。家族には毎月利用者の写真を添えた手紙を送り、家族からは面会時や電話、メール等で意見や要望を聞き、利用者サービスの向上に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に参加して意見交換の機会を設けています。意見、提案に対しては速やかに反映します。	管理者も現場に入り、日常的に職員の意見を聞いており、それらを記録し運営に反映させている。また、個別に話を聞く時間も設け、理事長が出席する職員ミーティングの際に、業務手順や物品の補給、修理等について検討し、改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を活用して年に1度評価を行い、給与に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人のスキルアップのため研修や資格取得を進めています。研修費の支援を行います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会のメンバーと情報交換して分からない点等教えてもらいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の面談、情報収集に努め本人のニーズに合った支援が出来るように取り組んでいます。ケアプランに反映し家族からの同意を得ます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談にて要望等理解してホームとしてどのように対応していくか検討しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来ることはすぐに対応して、困難事例については関係機関と相談して対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が今まで培ってきたことから学ぶこともあり、お互い支え合う関係を築ようとしています。自尊心に配慮した言葉かけに気を付けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院への送迎や入退院時の支援、買い物援助等手伝ってもらうこともあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に継続して訪問してもらえるように、行事の案内や毎月の状況報告をして働きかけています。	隣の同法人事業所の利用者や、友人、美容師とも交流するなど、家族以外の馴染みの関係継続も支援している。現在は新型コロナウイルス感染予防のため、面会を制限しているが、ラインを活用してリモートでの面会を工夫したり、音楽療法や介護エステ、ペン習字等の早期再開を目指している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人に合わせた対応をしています。トラブルが起きないように調整を図ります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前利用者の家族の方がホームを訪れてくれるケースもあります。相談があれば必要に応じて対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事や外出の希望を尋ねて出来るだけ対応できるように支援しています。意思表示の難しい利用者には個別に関係者と対応しています。	利用者が安心できるよう、居室担当者を決めている。職員は利用者との会話、表情、仕草からも思いや意向を把握するように努めている。また、入浴時や夜間の支援で1対1になった時には、さりげなく本音を引き出せるよう声かけし、本人本位の支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、日常の利用者の会話でニーズの把握に努めます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	声かけを多くしてコミュニケーションを取り様子を見守ります。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、スタッフが家族の意見を参考にし話し合います。往診時の医師の助言、訪問看護での看護師の助言を参考にします。処方について個人記録を参考に医師と相談しています。	家族の来所時及び電話等で、事前に意向を確認している。医師や看護師の助言、種々の記録を参考にケアマネジャーと職員が話し合い、介護計画を作成している。3か月毎に、モニタリングを行っている。	日々の介護記録は、時系列で正確に記録されている。介護計画の変更やモニタリングに反映させやすくするため、さらに確認しやすく、重複しない記録のまとめ方と書式の工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の感じたことを個人記録に記入しています。申し送り時、ミーティング時に話し合いケアプランに反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別支援を重視して泌尿器科、歯科、整形外科、皮膚科等の専門医療機関への受診支援を行います。		

岐阜県 グループホーム柳ヶ瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別対応で外出支援ができるように取り組んでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望により入所前のかかりつけ医を利用する方もみえます。嘱託医とは24時間対応です。	契約時に、かかりつけ医について事業所の方針を説明している。現在、ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医としている。月2回の往診、訪問看護、訪問歯科、利用者の状態に応じた通院で、24時間の医療連携の下、支援している。他科への受診は職員が通院支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護を受け緊急時の対応について指導していただき、確認をします。タブレットで情報共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	専門医への定期的な受診で状態把握をしてもらい嘱託医とともに連携しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本方針を説明して、最終的には医療機関と家族、ホームで方針を共有します。	契約時に、重度化や終末期ケアについての方針を説明し、本人と家族の意向を確認しており、ほとんどの家族が看取りケアも希望している。状態が変化した場合は、かかりつけ医や看護師との連携のもと、最適な支援ができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてミーティング時に話し合いをして、マニュアルの確認を行います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行います。防災グッズの定期的な入れ替え、利用者、スタッフとのシュミレーションを行います。停電時の対応マニュアルを話し合い作成しています。	年2回、夜間想定も含めた避難訓練をしている。備蓄品は必要に応じて入れ替えている。様々な災害を想定し、停電に備えた対応策、マニュアルの作成・見直しに取り組んでいる。玄関には災害時用の個別のリュックを準備している。	事業所は様々な防災対策に取り組み、訓練を重ねている。想定外の災害も多い昨今であるが、警戒レベルに準じて、全職員が迅速な行動で避難誘導ができるよう、訓練の継続に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	説明して納得してもらうだけでなく、安心してもらえる言い方に気を付けています。役割を与えて「ありがとう」「助かります」等言葉かけをします。	職員は、ミーティングや日々のケア時に意見交換を重ね、利用者一人ひとりの尊厳ある支援に努めている。難聴の利用者も多く、大声での会話になりがちなため、プライバシーの確保に問題がないか常に振り返っている。ジェスチャー等の非言語コミュニケーションも大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	対話を大切に傾聴しています。話しやすい雰囲気づくりに気を付けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自のペースに合わせた時間配分を行います。食事のメニューについて話をしたり外出希望等がないかを尋ねてその人に合った支援をします。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着用したい衣服を自分で選ばれる方もいますし、スタッフが用意したものを着直す方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいもののリクエストには出来るだけ対応しています。季節感にも気配りして作っています。利用者にメニューを考えてもらう等個別に対応しています。嫌いな食べ物がある時は切り方や味付けに工夫しています。	食事は三食とも職員の手作りで、旬の食材を利用して、刻み食など、利用者の状態に合わせた食事形態で提供している。リクエストに応えた行事食も充実させ、食べる楽しみにつなげている。エンドウの筋取りや簡単な調理、片づけ等、利用者も出来る事で関わられるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には10時15時に水分補給を行い、個別に対応もしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ポリドントや口腔ケアスポンジの利用など個別に合わせたケアを行います。定期的な歯科受診の支援を行います。		

岐阜県 グループホーム柳ヶ瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中の失禁が軽減できるように早めの声かけをしています。立ち上がり等が難しい方は夜間ポータブルトイレを使用しています。立位難しい方は2人で対応しています。	利用者の排泄状況を記録し、排泄リズムを把握して声かけやトイレ誘導を行っている。個々の状態に応じて、紙パンツやパッド、夜間のポータブルトイレ使用等を組み合わせ、おむつの使用を最小限にできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩を取り入れスタッフ同士が確認表を見て対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回を基本に体調によって柔軟に変更、また2人介助で対応もしています。	入浴は週3回を基本に、リラックスして入浴を楽しむことができるよう支援している。支えが必要な利用者には、二人介助で湯船につかることができるよう支援している。利用者の状態によっては、家族や本人の承諾を得て、シャワー浴を行う場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力が低下している人には入浴を考慮したり午後から希望者には休んでもらうように勧めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりにファイルを作成して管理しています。服薬時に飲み忘れがないか確認します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人で過ごしたい方、談話室で皆と一緒にいたい方それぞれに合わせた過ごし方をしてもらいます。音楽療法等の行事には全員参加してもらおうようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	商店街や神社等への散歩を個別に対応しています。	天気が良い日は、近隣の神社への散歩や、馴染みの商店、喫茶店へ出掛けたり、ハンバーガー店へ買いに行くこともある。また、地域や公民館での行事や、祭りへの参加、季節の外出も楽しんでいる。現在は、コロナ禍にある為、外出も休止しているが、事態が落ち着いたら再開を企画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に自分で支払いをされる方もいますし、お任せで買い物される方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族と直接電話されることもあります。オンライン面会の利用を始めました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を用意します。自分で花を選んでもらい、花を活着て飾ることもあります。飾りつけは利用者と一緒にいきます。習字や折り紙等の作品を飾りつけています。	1階に談話室と事務スペースがあり、職員と利用者が共に姿を確認することができる。食堂と談話室も廊下でつながっており、共用空間全体が家庭的な雰囲気である。手作り作品を飾り、季節の花が彩りを添えている。また、カラオケやレクリエーションを楽しむ団欒の場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	部屋にいたい時と談話室にいたい時と本人の希望を優先させています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋担当者を決め、昔から大切にしているものや自分で作った作品と一緒に飾り付けています。	民家を改修したホームで、それぞれ異なる造りであるが、利用者が使い易いように工夫をしている。ベッドが備えられており、使い慣れた家具を持ち込み、小物や作品を飾り、利用者の個性を大切にした居室空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺や床材など必要に応じて相談して対応しています。		